

ICLS・MCLS 研修の成果

～救急外来常駐の臨床検査技師として～

◎児島 有理彩¹⁾、伊藤 英史¹⁾、磯部 勇太¹⁾、鈴木 雅大¹⁾、大嶋 剛史¹⁾
医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院¹⁾

【はじめに】当院は病床数 704 床の第 3 次救急医療施設であり、2023 年 4 月より臨床検査技師の救急外来常駐とドクターカー業務を開始した。救急の現場では急変対応が求められる場面も多く、緊迫した状況下でチーム医療の一員として検査をはじめ様々な処置に携わっている。そこで、より迅速な対応ができるよう病院前救護に活かせる「日本災害医学会 MCLS 標準コース」や急変時対応に活かせる「日本救急医学会 認定 ICLS コース」を受講した。今回、我々はこれらの研修を通して得られた成果について報告する。【研修内容】MCLS：多数傷病者への医療対応標準化に特化したコースである。多職種（医師・看護師・コメディカル・消防・警察職員等）の連携を目的として、救護現場における考え方や適切な行動を学んだ。ICLS：一次・二次救命処置に特化したコースである。リーダー、CPR(胸骨圧迫・換気)、記録に役割を分担し、人形を用いて救命処置を実践した。AED の使用方法や状況に応じた気道管理法（挿管の介助や経鼻・経口エアウェイの挿入）、心停止の原因検索について学ん

だ。【活動例】ドクターカーによる病院前救護活動において、以前は医師・看護師の補助として緊急走行時のアナウンスや物品の準備が主な業務であった。しかし研修受講後は、緊急現場における初期診療で、同乗の医師や看護師と共通の認識を持って連携し、気管挿管の介助が行えるようになった。また、心肺停止状態で搬送された事例においては、心拍再開(ROSC)後に心電図検査や採血を行うのみであったが、研修受講後は、胸骨圧迫やタイムキーパー(時間管理と記録)も行うことが可能となり、病院到着時から ROSC までの時間もチーム医療の一員として動けるようになった。両研修は、他職種連携を基に優先順位を考慮し、検査技師の枠にとらわれない救急医療の提供に繋がった。【まとめ】臨床検査技師が MCLS や ICLS コースを受講し、急変時対応の流れを把握することは非常に意義のあることだと考える。今後もチーム医療の一員として多職種間でコミュニケーションを密にし、救命処置のトレーニングを行うことで効率的な救急医療の提供に努めていきたい。連絡先：0566-25-8028